輝け 未来へ 中番校

No one will be left behind

3･4･5･6 年生に到達度テスト。昨日、今日の両日実施。
－Change（変革）,Challenge（挑戦）,Continue（継続）－

昨日、一昨日と朝の寒さが厳しかったですね。今朝は雨上がりということで少し寒さが和らぎました。しかし、冬、本番といったところでしょうか。早くも**来週の 22 日は冬至**となります。２学期もいよいよ大詰め、残り一週間となってまいりました。子供達には、２学期最後まで、健康で安全に、元気に登校して欲しいと願っています。

さて、昨日と今日の二日間、**3年生から6年生に「到達度テスト」を実施しました。**昨日は国語と算数、今日は社会と理科でした。この到達度テストの実施については、学力向上、学習状況把握の観点から実施しています。概ね２学期終わりまでの学習内容を範囲としております。以前にお知らせしておりました通りです。昨日の１時間目、各教室の様子を見に行きました。みんな真剣に問題に向き合っていました。聞えてくる音は、鉛筆を走らせる音、問題用紙を捲る音だけです。本当に静かでした。普段のテストとの違いは、問題用紙と解答用紙が分かれていること、通常の単元テストよりも長めの文章であったり、設問数が多くなっているところでしょうか。また、解答用紙には、学級名・番号・名前以外に、学校名、性別、名前のふりがな等、若干記載事項が多くなっているかと思います。このようにちょっとした普段との違いも意外と、子供達にとってはハードルが高くなることがあります。保護者の皆様も校種（小学校・中学校・高校・大学等）によって、テストの手法・手順等の違いに戸惑いをお感じになられたご経験がおありだと思います。どのようなこともやはり経験は大きいことだと思います。この到達度テストも４年生以上は昨年度経験していますが、３年生は初めてとなります。普段との違いもありますが、上手く書けたでしょうか。保護者の皆様は、テストに対してどのような思いがありますでしょうか。テストは、嫌い、嫌だ、みたいな感じでしょうか。それとも大好き、大好きとまではいかなくても、まあまあ･･･的な感じでしょうか。テストを子供達はどう思っているのでしょうか。あまり嬉しくないものとして受け止めているのでしょうか。細かく尋ねたことは無いので本意は分かりません。子供達なりの様々な受け止め方があってよいとは思います。ただ、折角時間をかけ実施する訳ですから、いいところもなくていけないと思います。テストのよいところは、できるかどうか、分かっているかどうかが分かります。以前、お話ししたことがありますが、**「やったら、できるのに･･･」ではなく、「やればできるかどうかが分かる」、「理解できているのか、いないのかが分かる」ということです。**色々な教科のここはできて、ここはできていないということが分かる、確認できるということです。なので、自分自身のできていないところは、もう一度復習すればいい訳です。学習は、この繰り返しなのだと思います。勿論、結果がよいことに越したことはない訳ですが、**自分の得手不得手を理解することも大切なことです。つまり、「自分を知る」ということです。**自分を知れば、その対策を考えて次に備えることができます。「敵を知り、己を知れば、百戦危うからず」ということです。なかなかこう上手くはいかないものだと思いますが、そのような心持ちで次に備えるということが大切なのだと思います。また、多くの参加者（全国的）がいますので、**相対的な視点で自分の学力を捉えることができることもこのテストのいいところであると思います。**できる、できないという視点よりも、「自分を知る」、そして、今後の学習への意欲につながれば大変嬉しいと思います。

新型コロナウイルス感染症では、新たな変異株オミクロン株の感染、流行が懸念され、心配な状況です。今後も感染症の対策の徹底を継続していきます。保護者の皆様には、引き続き、感染症対策についてご理解とご協力を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

学校通信　No.６４　令和３年１２月１７日　小野市立中番小学校長　田中康善